

大分工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	計算理論
科目基礎情報						
科目番号	R03S525		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	情報工学科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	なし 参考資料を配布する。					
担当教員	徳尾 健司					
到達目標						
(1)決定可能性, 帰着可能性, 再帰定理, 計算複雑性などの諸概念について理解できる。(定期試験と小テスト)						
(2) λ 計算, 自然演繹および計算と論理の対応関係について理解できる。(定期試験と小テスト)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
(1)決定可能性, 帰着可能性, 再帰定理, 計算複雑性などの諸概念について理解できる。	決定可能性, 帰着可能性, 再帰定理, 計算複雑性などの諸概念について, 他者に説明できるレベルで理解している。		決定可能性, 帰着可能性, 再帰定理, 計算複雑性などの諸概念について, 講義で取り上げた例題を解くことができる。		決定可能性, 帰着可能性, 再帰定理, 計算複雑性などの諸概念について, 基本的な概念の定義や用語の定義を述べることができない。	
(2) λ 計算, 自然演繹および計算と論理の対応関係について理解できる。	λ 計算, 自然演繹および計算と論理の対応関係について, 他者に説明できるレベルで理解している。		λ 計算, 自然演繹および計算と論理の対応関係について, 講義で取り上げた例題を解くことができる。		λ 計算, 自然演繹および計算と論理の対応関係について, 基本的な概念の定義や用語の定義を述べることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (B1) JABEE 1(2)(g) JABEE 2.1(1)②						
教育方法等						
概要	「計算とは何か」を規定するChurch-Turingのテーゼを軸に, 2つのテーマを取り上げる。前半は計算モデルとしてTuring機械を用いて, 決定可能性, 帰着可能性, 再帰定理, 計算複雑性などの重要な概念について学ぶ。後半は, もう一つの計算モデルである λ 計算を用いて, 計算と論理の関係について考究する。 (科目情報) 教育プログラム 第2学年 ○科目					
授業の進め方・方法	原則として毎回, 授業内容の理解を問う小テストを実施するので, 授業を良く聞いて理解に努めること。 (参考図書) [1] Sipser, M., Introduction to the Theory of Computation, PWS Pub. Co. [2] シンサ, M., 計算理論の基礎, 共立出版。 [3] ホップクロフト, J. 他, オートマトン 言語理論 計算論 II [第2版], サイエンス社。 [4] 鹿島亮, C言語による計算の理論, サイエンス社。 [5] 萩谷昌己・西崎真也, 論理と計算のしくみ, 岩波書店。 [6] Stuart, T., アンダースタンディング コンピューテーション, オライリー・ジャパン。 [7] 高橋正子, 計算論, 近代科学社。 (事前学習) 参考図書 [1, 2] の該当箇所を読んでおくことが望ましい。					
注意点	(履修上の注意) 配布プリントを整理するためのクリアファイル(A4サイズ)を用意すること。 (自学上の注意) 参考図書の必要箇所を参照して予習・復習を行うこと。授業内容は [1][4][5] に基づく。[2] は [1] の邦訳。[3] はこの分野の標準的な教科書の一つ。[6] はプログラミング (Ruby) を通して実践的に形式言語理論と計算理論を学べる本。[7] は λ 計算の標準的な教科書。					
評価						
(総合評価) 総合評価 = 定期試験 $\times$ 0.7 + 小テスト $\times$ 0.3						
(再試験について) 総合評価が60点未満の者に対して実施する場合がある。受験資格者については試験解説時にアナウンスする。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション	予備知識を確認する。(計算 / アルゴリズムの定義 / Church-Turingのテーゼ / Turing機械 / Turing計算可能 / 再帰的定義とプログラム / λ 抽象)		
		2週	Turing機械の変種	Turing機械の変種について理解する。(多テープ Turing機械 / 非決定性Turing機械 / 現実のコンピュータとTuring機械)		
		3週	帰着可能性	帰着可能性について理解する。(帰着 / 帰着可能性と決定可能性 / Turing機械の停止問題 / Turing機械の空性問題 / Turing機械の正規性問題)		
		4週	写像帰着可能性	写像帰着可能性について理解する。(写像帰着可能性 / 計算可能関数 / 写像帰着可能性と決定可能性 / 写像帰着可能性と認識可能性)		
		5週	再帰定理	再帰定理について理解する。(自己の文字列表現を生成する機械 / 再帰定理)		

		6週	P≠NP予想	計算の複雑性について理解する。(時間計算量 / 漸近分析 / 時間計算量クラス / 多テープTuring機械の時間計算量 / 非決定性Turing機械の時間計算量 / クラスP / クラスNP / P vs NP)
		7週	NP完全性	NP完全性について理解する。(ブール式 / 充足可能問題 / Cook-Levinの定理 / 多項式時間帰着 / NP完全)
		8週	λ計算	λ計算について理解する。(λ式 / Curry化 / λ項 / α同値, α変換)
	4thQ	9週	後期中間試験	
		10週	後期中間試験の解答と解説	
		11週	Church-Rosserの定理	Church-Rosserの定理について理解する。(β簡約 / Churchの数字 / Church-Rosserの定理)
		12週	型付きλ計算	型付きλ計算について理解する。(型 / 型付け / Subject Reduction定理 / 強正規化可能性定理 / 型検査)
		13週	自然演繹	自然演繹について理解する。(自然演繹の図式 / NK, NJ)
		14週	Curry-Howardの対応	計算と論理の対応関係について理解する。(λ計算とNJ / λ項による証明図の表現 / Curry-Howard対応 / β簡約と証明図の変形)
		15週	後期期末試験	
16週		後期期末試験の解答と解説		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
		試験	小テスト		合計	
総合評価割合		70	30		100	
専門的能力		70	30		100	